

成形圖說

農事部

九

農務省
和圖書
第九三五號
共三〇冊

太政官文庫
和書門
八一九二
類號函架
三〇冊

內閣文庫
和書
八一九二
類號函架
三〇冊
九六二九
函架

內閣文庫	
番號	和 8192
冊數	30 (9)
函號	196 102

典故



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

成形圖說卷之九

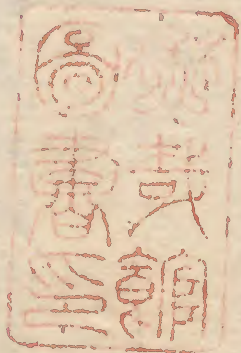
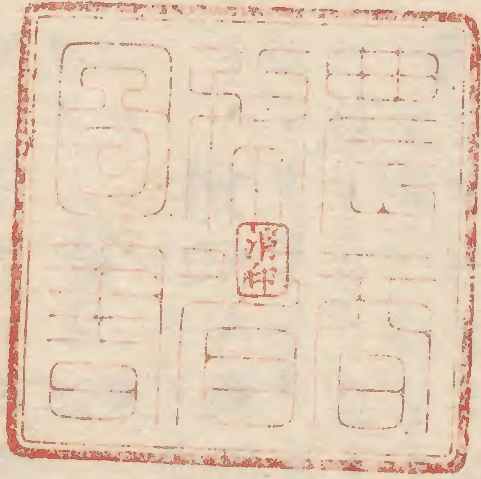
目錄

均田平均

黃冊冊

役丁丁

附度竿竿



成形圖說卷之九

成形圖說卷之九

農事部均田

班

凡田六年一班萬葉集云班田使の事あり六年一丁度

給田同又曰收數田均給於民○持統紀云八賦田

量欽明紀量置田部と云々又書紀云等校田と云

檢田大隅國臺明寺藏書の中承平三年十一月十

日檢田入部の事と云毛視の事と云百姓の配

支配建武二記田地と云古謂班田收授の

地押地取

成形圖說卷之九

均田 五代史周世宗嘗夜讀書見唐元稹均田圖歎曰此致
 天下 治之本也 詔頒其圖法吏民先習知之期以一歲大均
 括田 廣治平畧○王海開元九年以宇
 政刑大觀清丈 踏勘 丈勘 以上明
 田地 所謂步弓不 打量 歸田錄以丈尺
 用 果古法否 打量 量地曰打量 分田 孟
 蕃名アフメーテイングハンデランゲレイン
 孝德紀大化元年新詔曰凡國家所有公民大小所領人衆
 汝等之任皆作戶籍及校田畝校田畝謂檢覈墾田頃畝及
 民戶口年紀白雉三年至是班田既訖トクノクニ是諸國
 檢地の始トクノクニ也是より前 履中の御宇檢校天子之

百姓トクノクニハ公田と私と支配して檢地せしむ也田
 令曰凡校田先課役後不課役先無後少先貧後富建武記
 曰就田數可支配事遠國三十町中國二十町近國十町別
 一人分面ヒ可參勤當知行之地不足之輩者可沙汰渡課
 役於惣領若無惣領者可辨其郡催促之役人
 丈ツ古事記○凡上古地と度カ及ヒ長短と量るハ丈ツ字
 云亦之ハ用トクノクニ凡ハ此ハ丈某ハあり々丈尺と
 卷ハ間竿ハ用トクノクニ凡ハ此ハ丈某ハあり々丈尺と
 檢竿 打竿 尺丈
 田竿 即量竿

成形圖說卷之九
 度竿 通 丈篙 篙尺量 以上郷 歩弓 大學衍義補按子
 典 談正音 唐山の畝率ハ自



歩を以て一町とす歩ひと一歩を以て一夫一日の食と
して一町一年の食分を充と云ふ志うるよかく約らして
いふ一乃王法と変られ一は万民争り窮ざらんさ
ればは法再びあふ復んこと井田一と云ふ變して復一難
がごとくちりぐ一蓋也氏丈量とせしむるよじりの
とく或一郡一か一莊と眞人あけ六十餘畝の地は是
を法とおもひかくハ計らむ一やとあり蓋氏曰天
正の前の水帳は一畝三百歩と何まは冬間より始るよ
此頃とつり又民間ありハ或六尺二寸より三寸四寸
有崎等の差たり或曰文禄より前の歩法六尺三寸一歩ハ

是畦と除く宛り一より或六尺五寸ハ畦越かて宛じ
是辺東のよある田と人、家よく一畝見よ田の畦ハ家の
お居のぶと一又縁の歩法六尺三寸方ハ二帖の定尺
也是と家の間よ積よ六尺三寸ハ柱の中間毎よあるを
柱横よ家の家ハ六寸角ハ家の家ハ八寸角あり家の長
も四角方のある柱の幅よ家者出入せし、曾よ横三尺一
寸五分縦六尺三寸尺の身と成て廣く一尺狭く一尺合
る儀なり然らば小き畦と云てありは六尺五寸裕な
くあり大ききる畦と加てありハきり好とあるをきり
あると又檢竿の長六尺五寸と何と六尺三寸とあると

て尺もバ是睦と際て究しるはけりるべし
古事記傳曰凡家の柱と柱との中法中間と云ハ記の所謂ハ箇間あり律原發揮曰以曲尺六尺五寸為一步俗稱一間筭路用之又以六尺三寸為一步俗稱京間每蘭席二間置間一其濶四寸折半之配一間則得二寸以減六尺五寸餘六尺三寸為席一間之法筭田積用之又以六尺為一步俗稱一間今按是後俗の從より瓊矛拾遺曰紫宸殿清涼殿等ハ七尺間也凡伸中指以十為一間臣下之屋作凡伸中指以九為一間故以六尺三寸為一間是古の制といつり
 ○凡竿はてあがきき解交は繩引して地と量はと向繩又水繩管繩等の名何れ其繩約長一町或百間ふして一間のふし絢壘十間の所は色繩の記跡とほくふなると但繩よくを畝段展どして編るゆえ竿とふまは竿と打竿ばかりよてを展ど周く置竿と用う皆指通らりあふふこゝたり

凡^{ツサホ}丈竿を二間ふして一丈二尺之と一間ふ一分づの
 飯計とさしめく百丈ふ丈といつどと寸歩と終らばさ
 量とさしめく百丈と竿取の巧拙とく板服何ふとを
 流どとさしめく少と私ふく細査とさしめく俗に物の粗
 詰や一城皆違とらふハ田地の省敷と相違やとさしめく
 いつり○竿と打尺寸と去て某間まともさしめくは
 十間五尺五寸とふさしめく付ハ十間まもてて零の二尺
 五寸ハ去とさしめく又十間まもてて二尺五寸づゝ五
 尺も零とさしめくハ一方ハ十間まもてて打尺凡大
 計るよ寸尺まで細く究むつてハ及て穴費よ坐て頼
 しき伊急孝徳紀も半と五寸と訓まもて五寸とふれバ

東限岑山口 南限堀越山谷 永為殖供御地黃地又元亨
 西限岑 北限辛河合
 二年四月廿日田票津國小田村十條四里八坪の四至東限
 他領限西道限 北他領限南濱
 四方限を究めてハ後所居宅まで差缺をさす
 るを今のごとく畝段打をさす
 要曰弘仁二年二月三日格田地占請之輩偏限四至不論
 町段是以檢四至則涉于官舍人宅勘町段則不滿四至之
 内求之政途理不合然自今以後占請地一定町段不依四
 至云々

田

文東鑑○拾芥鈔田籍部あり康曆元年式目吉日吉
 文園北野神輿可造畢仰使節召出國大田文段別三拾
 閣可檢納之○新田宮藏弘安八年薩摩國田文事神社佛
 御圖帳是本民部省圖帳の畧言なり故に御の字と附
 水帳と云ふ省帳と云ふ

名寄帳 高辻帳 檢地帳 亦云野 圖田帳

黃冊 續文獻通考明太祖洪武十四年詔定編賦役黃冊之
 造其田地開豁各戸若于有官民田地二則係官田者照依
 官田則例起科係民田者照依民田則例徵收俱黃冊有載
 賦額適均而力役

亦稽此以平矣 魚鱗冊 同上明太祖既定天下乃集糧
 遂圖其田之方圓大小次書其主名 魚鱗圖冊 昭代典則
 及田之四至編彙為冊號曰魚鱗冊 魚鱗圖冊 洪武廿年
 浙江等府縣集里甲者民躬履田畝以量度之圖其田之方
 圓次其字號悉書主名及田之丈尺四至編類為冊其法甚
 備以圖所繪狀若魚鱗 清丈冊 丈冊 以上未 砧基簿 文
 鱗然故号魚鱗圖冊

靈臺儀象志
測量圖

續極志集

宅序

一とらうよ

人とも

身とも

おま

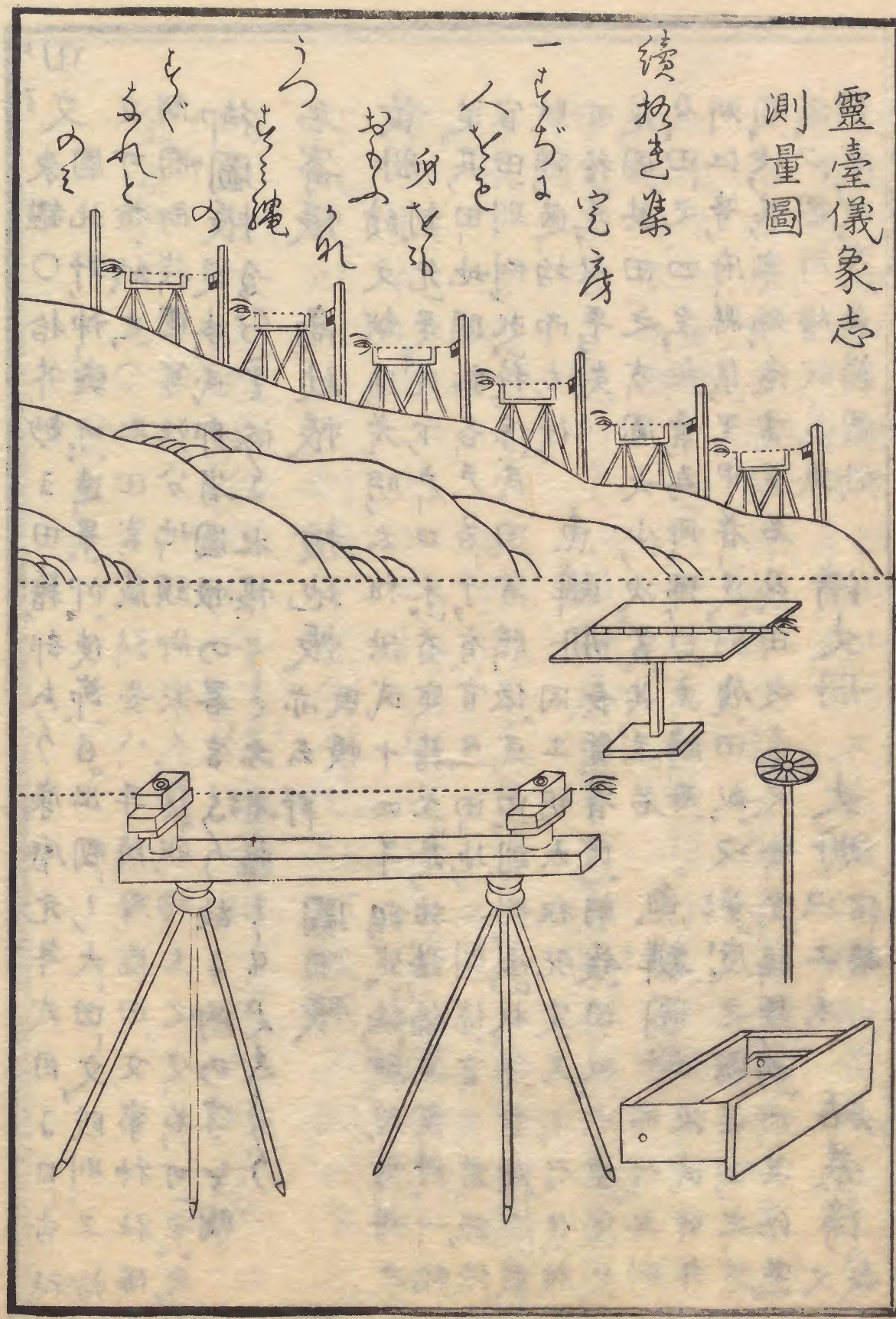
うら

の

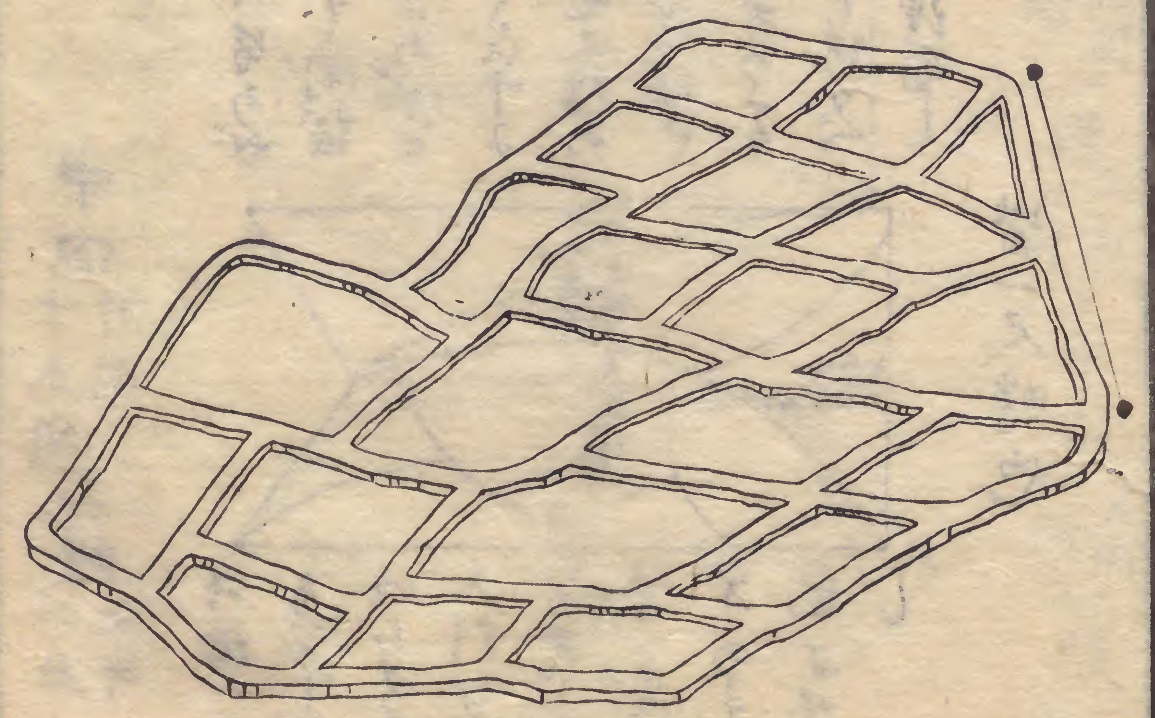
ふれと

の

の



此景儀令ハ黒圈初見の
角の方子あはば羅針と
備へ第二の角と度里を
方向針盤母の何分ある
と記し其間の長短と麻
索めく度里何分何尺は
るを記し其間周圍と皆
かくして度里終り角と
方向并にその間の長短と
記し後手記しよりてゆ
圖と儀を準し是れと
きハ圈内何所行ぬるか
出ると漢字を添ふり

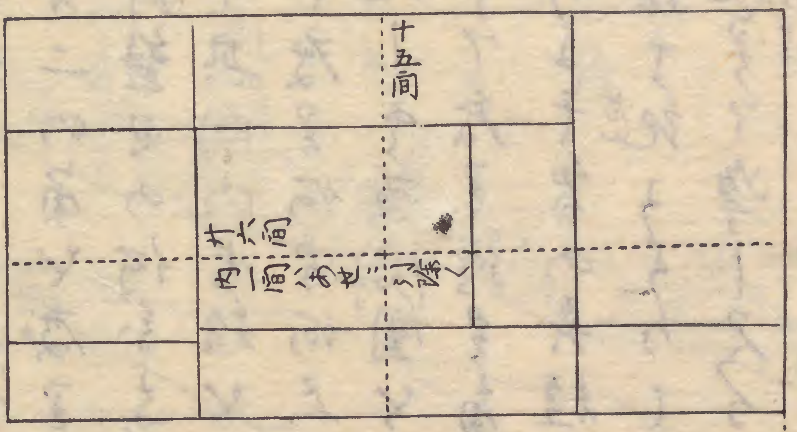


成形圖説卷之九

十

上田 十五間 一段二畝拾五歩二石

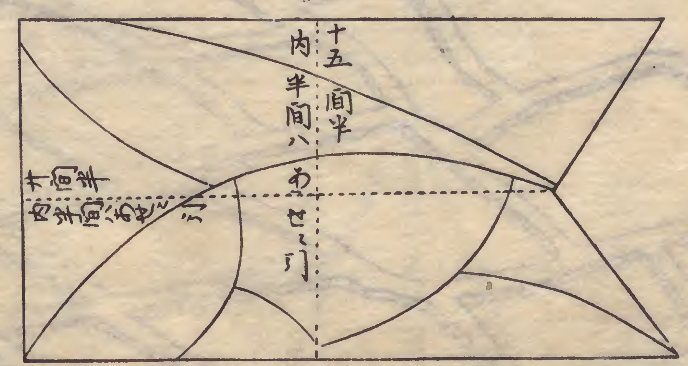
横一尺五寸
 睦二具
 外八寸の
 小睦也毎
 圖は墨を
 引ハあせ
 朱と引ハ
 竿筋也



此畧ハ皆あせ
 と後て間越
 少後ハあせを
 引く竿は
 究る也又始あ
 せと見違ふ
 間と究る
 竿とあせ
 しと理同し

中田 十五間 一段一石四斗

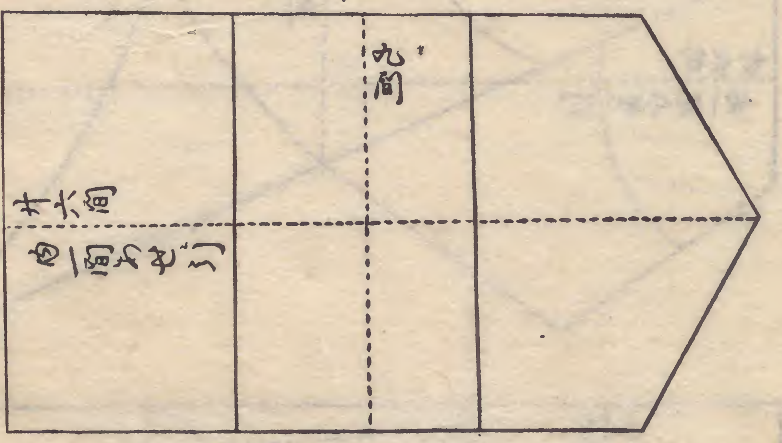
皆一尺睦也



此地一方界
 直くは
 此なるま
 入引合せ間
 と究るも
 竿と竿と
 竿のま
 記寸が
 し

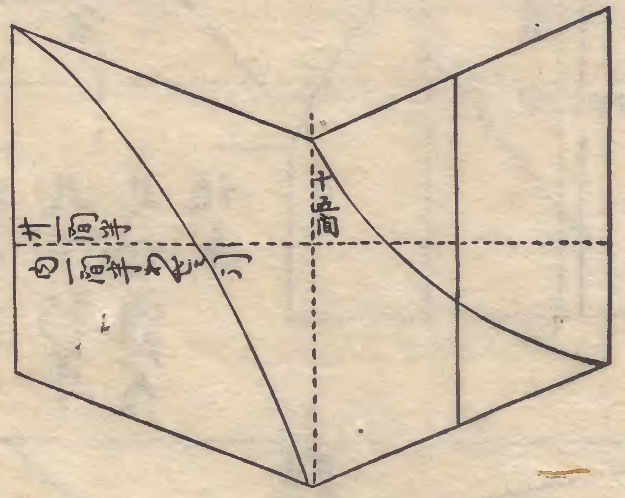
下田 九間 七畝拾五歩九斗

三尺高
 あせ二
 あり



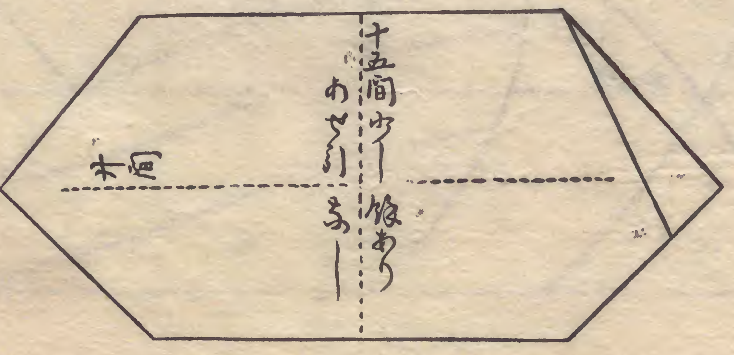
上田 十五間 一段一石四斗

横三尺高あせ二
 外ハ一尺あせ



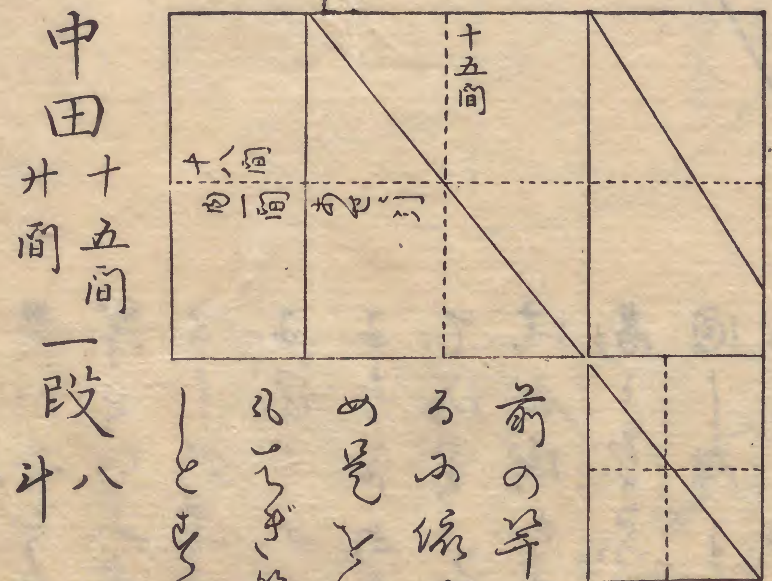
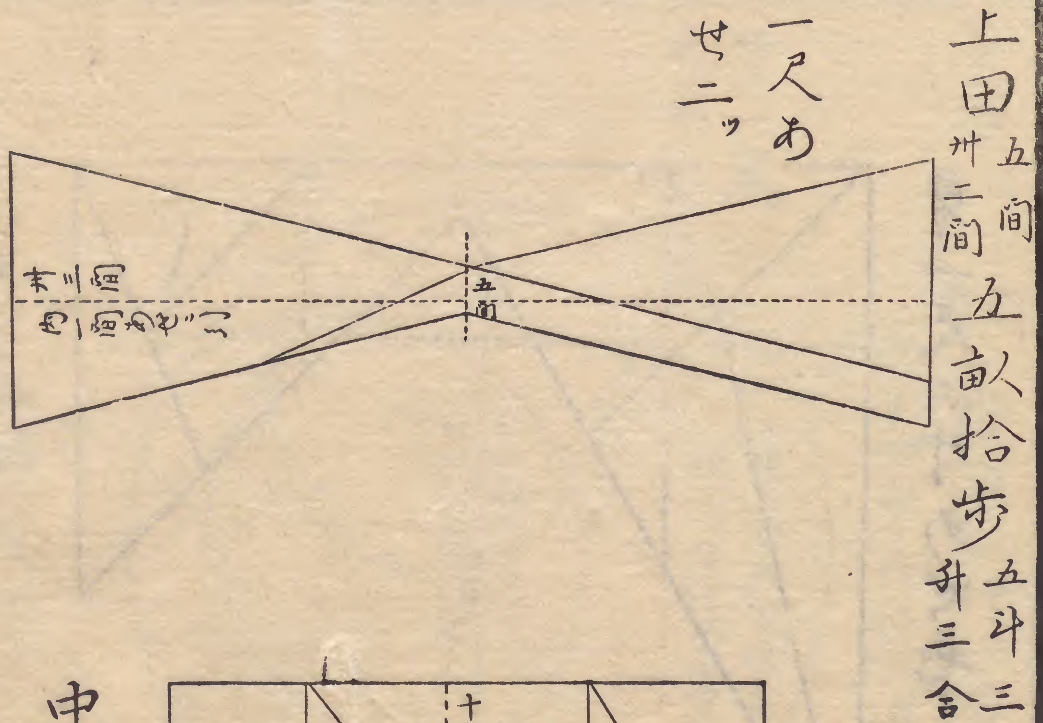
中田 十五間 一段一石二斗

八寸あせ
 一あり

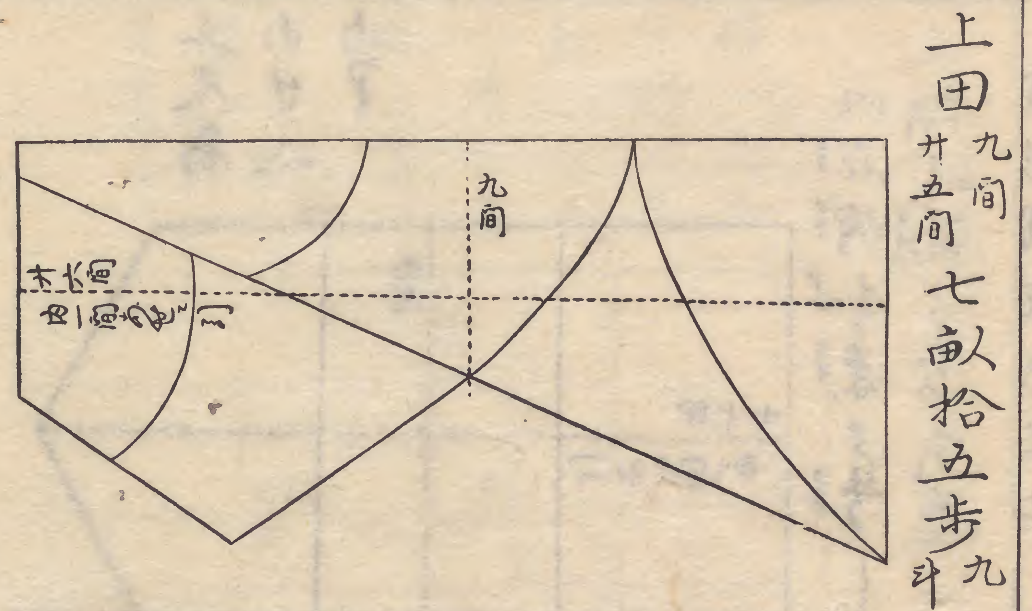


成形圖説卷之九

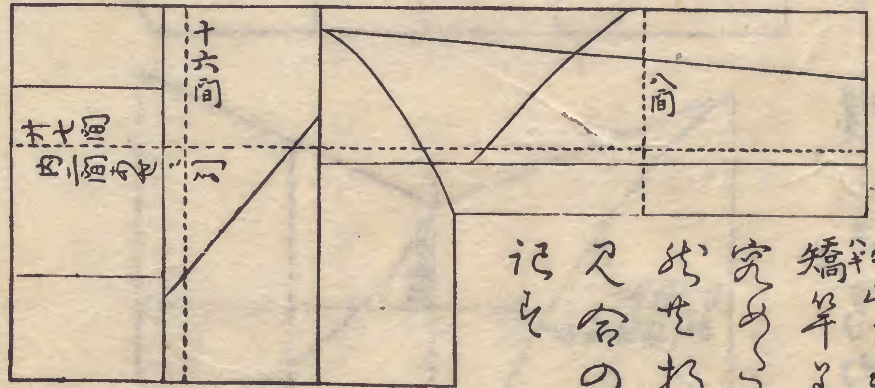
十一



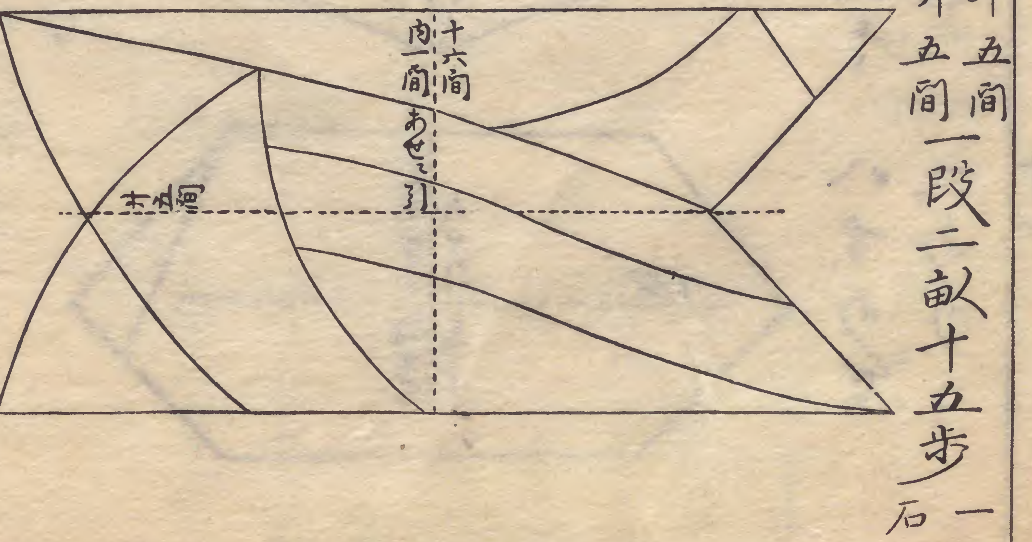
此出さき銀間よりくや
前の竿より次竿とあ
るみ縁て見合をた
め是より記を如是たる
るこち竿より完らぬよ
しとさぶさう



中田 卅二間 一反一石

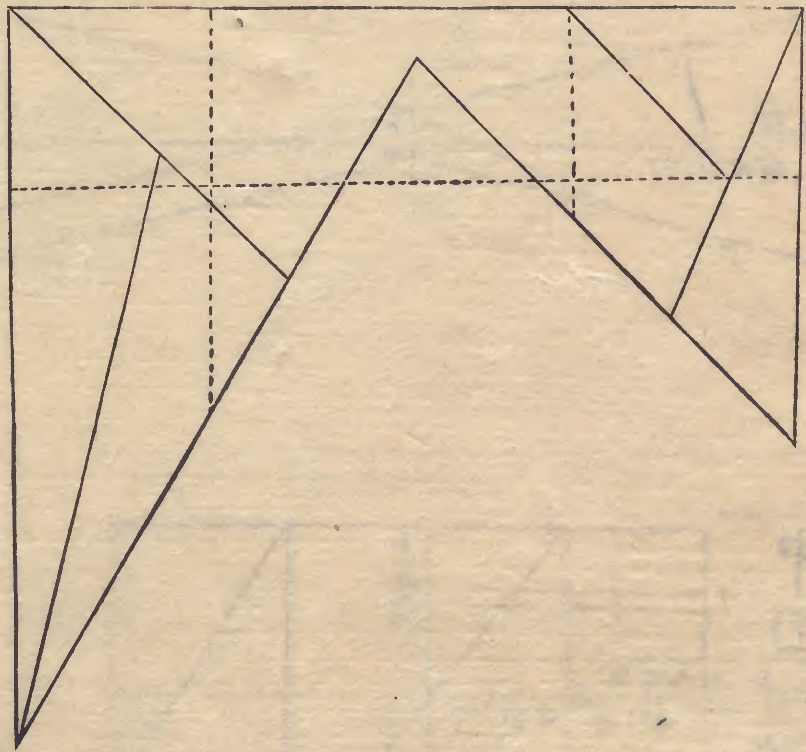


此の形ハ
矯竿よりと
完めらるる
然るに竿
尺合のた
記と



皆一尺二寸あせ也

下田 十二間 一段 一石

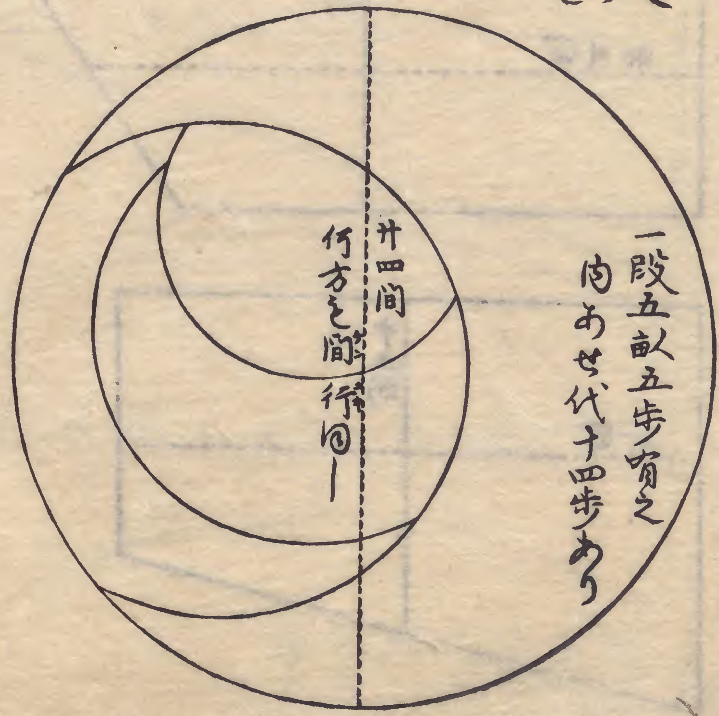


皆一尺二寸あせ也

是ハ二、どりの折羊也折
羊とらふ事記さるがお
り一折羊遠ふりたる
よ依て如此さるハ々ニ
よ折をあれバ二、よう
て総里さるあゆとあふし
は石附を末と号し分又
高とさるふ也上村中村同
同一度⁺まてと申村高下
ふあとかくのどと下
下村の向を準^ナ之

下田 廿一間 一段 四畝 廿一步 八斗八
升二合 外十四歩あせ、除く

皆一尺
あせ也



一段五畝五歩有之
内あせ代十四歩あり

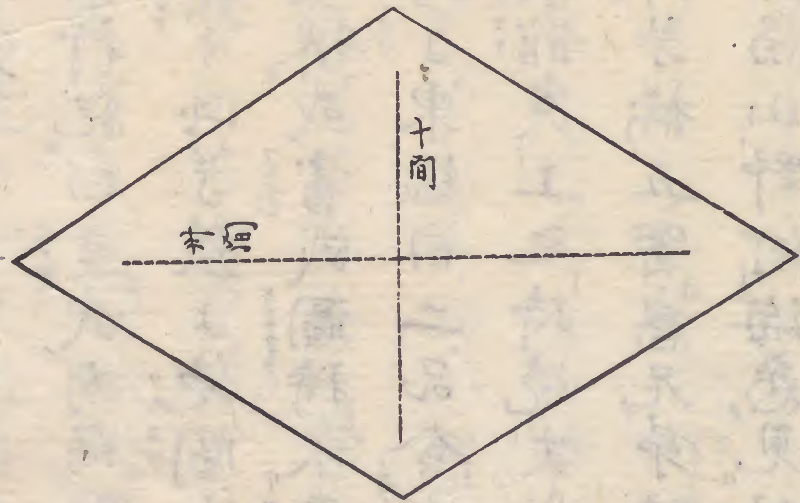
廿四間
何方を間行回一

上村畠檢地

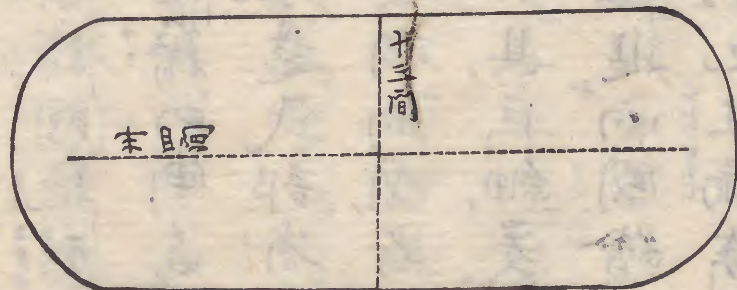
上畠一反一石二斗賦
中畠一反一石賦
下畠一反八斗賦

成形圖說卷之九

ウヤウなるハあせと引
除さるにましてたてよ
こ共一畝も宛る也是ハ
算法とて宛る羊也^ハ
城もまに殘して如此あ
たるもつゝハあせ又
つりてあてと知事何り



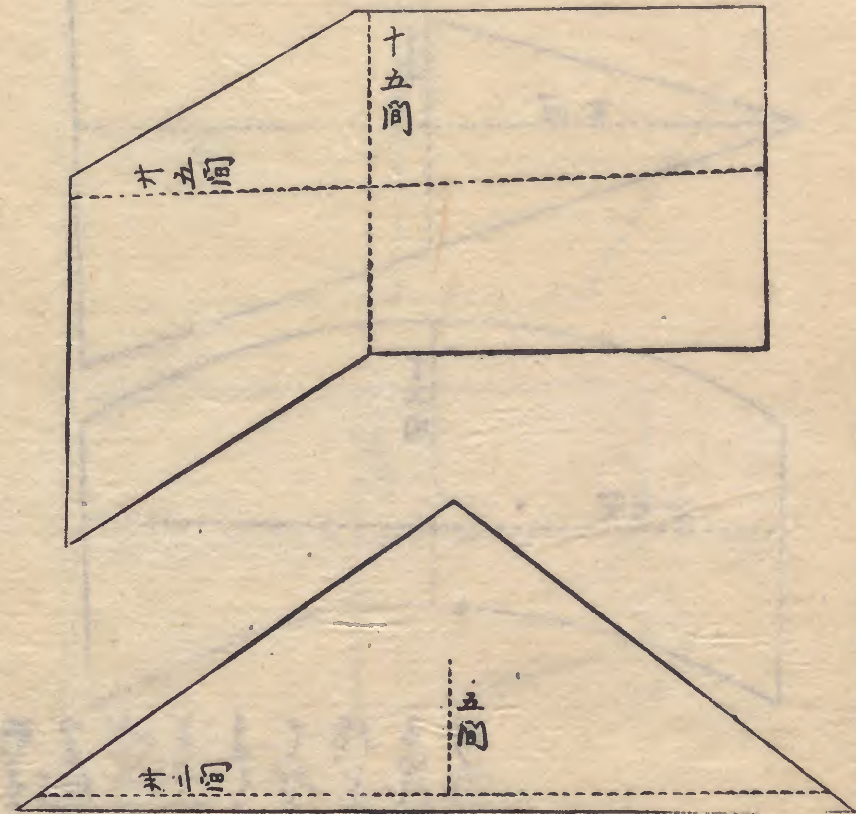
中畠 十間一段 斗五



下畠 十三間一段 四畠廿二步 斗四

うらうらあゝハまる
 之れ出さたて偶々
 ちか角よりてたこ
 卅四間よりたてたり

下畠 十五間一段 二畠拾五步 斗五



上畠 五間五畠拾歩 三斗七

横乃尖まて等城あま
 十間折等あて五畠の
 横に究る等もあり

通考宋紹興中圖寫墟畝選官按覆令各戸各郷造帖基簿仍示民以賞罰

蕃名アフテ一ケニングハンテラントレイン

景行紀曰遣武内宿禰察諸國地形欽明紀曰檢定田部丁

籍と此等並ニ地圖と田籍の漸より孝德紀曰宜觀國々

壇堺或書或圖持來奉示是民部省圖帳乃原始より

按ニ東鑑曰二品令求奥羽西國省帳田文已下文書而平

泉館炎上之時燒失難知其巨細爰奥州住人豐前介實俊

并弟橋五實昌兄弟暗注進西國繪圖辨定諸郡券契郷里

田畠山野河海悉見此中也注漏録目三所之外更無遺失

と云えりりとも奥羽ハ扱ての大國と云ふ實俊兄弟

其省帳田文郡郷田野のまゝで盡語ニ辨ハ識とらふと

殊特々々強記より右の口々相待一屏ニ拂ハバ心ニ勤

や〜と〜稗田阿禮讚岐永直等の聰明英才を〜と

考〜ぬりぞ〜と〜と邊裔ハ強識語算の術ニ

生〜と〜奇妙の書〜者〜あり〜と〜事〜書籍

ニ委てより其の讀書人又字よの精〜と〜自修の誠

と〜一丁字と識〜と〜者〜是書ニ化る

が〜と〜和訓栞曰津國豊島郡南郷村の社司今西

氏の流ニ田文あり〜寸紙の如く幅一寸あり〜界

引て又横界ありて山川田畑墓原を〜横ニおてあ

皇初^ニ文治五年御檢注加納田畑取帳とあり○延喜
 式勘造授田口帳書生四百二人紙三千八百張又班田使
 祇承^{サカス}屬一人^從史生三人^從各書生十四人^從各一人あり
 凡常の檢地と致す奉^ル仍二人帳附二人勘定三人竿取
 手使共よ八人程と一隊あり^{水帳と造るもハ田畑取}
 百村一人別の名寄帳以上三通は^{の野帳二通并ハ田畑取}
 のより公義の野帳二通づつ^{は御中一渡一重と}
 づつ^{野帳一通と}檢者の自勘^{ノカサカ}は存り^テ村の案
 間何間と^{野帳二通と}檢者并^テ帳附方と^呼言^ク
 皆々^ノ事^ハ進^ムい^テま^シき^ヤう^トは^帳は^あり^まし^まう^リ
 畔と油取^ルあ^らく^まき^めら^ると^竿と^植る^一田畑^ハは^らる^一組
 の宿^ルハ一方より見^カ志^テハ^皆遠^クあ^らと^何り^ある^竿

と植^ルは境よりと^立置^キ繼^リと^續く^一地方と^西と^東より○百姓
 へ^授け^ル田^ノ地^ノ内^ハは^各上^ノの^美田^一區^一つ^つ向^當お^く
 と^の也^俗ハ^大國^様と^る是^レ向^トと^質と^他へ^きり^時
 金^貨を^どの^者ハ^あり^まし^まう^リ減^却も^あり^まし^まう^リ他^ノ
 上^田と^質を^あり^まし^まう^リ又^ハ山^邊淺^川淺^津も^あり^まし^まう^リ之^者
 の^事を^表向^ハハ^不姓^{より}せ^り其^者れ^も畝^改の^羸縮^ハ
 加^へて^竿と^入置^めの^事あり○定^代の^檢地^ハと^物成^りて
 上^ノに^ある^米と^下に^得る^米と^と勘^へか^てそ^の畝^俵輕^重
 重^いら^うと^輕い^らう^穀を^差引^き上^下を^宜か^しま^しう^リ
 年^々に^辨あ^らし^め○上^見竿^の内^ハハ^六尺^竿を^し四^圍と^あ
 ず^内の^穀子^と席^を上^せま^して^持取^升糧^とし^て一^歩分^ト

と擬して畝町より何れぞと究る也○門割地といふは一村の門を盡きりて百姓は親疎あらずに田地と校割とを分ちたるを謂ふ田は完する所を年経て下田は變り又下田を上田となりて高結地成の程を以てかゝるは由志中墨の半と入て田地と割配各税則と平とを執ると酷吏とを分ちざるは又出とを以て公の益なきといふは反て私の培免とて百姓と傷ふものなり政刑大觀云自丈量至今已逾百餘年桑滄更易攤沒無算是之く門割を以て田畑の乱るるを以て○或謂格化ハ百姓窮乏は田税も第一と以て農夫ハ田税

則の格との事なりとのゆゑ格地の完やうと云う志望おのま不精はといふ流やが村中絶と夫の勤と云うかめりては何り是事と執るの必當とて假令は次方法とて知志に當るは次通鑑宋紀云及其既種有司履畝増之故民皆疑懼と履畝ハ歩法とを畝段と究るものとあり○凡上村の百姓下村へ引移して上村の田と居ると以上村よりハ出居るといふ下村よりハ入居るといふ凡そ村名の者よりわづらして他より来りてその田地と居るとも入居るといふなり○祖の代には何百石ありてその子孫より家来より遷りその後檢地入るる時水陸口惣領此の石と肩書

子集ナニの集ナニは誰と記し是と云ふ所と云ふ家来と云ふ語りてると
家抱と云ふ年貢請取も惣領式の方へお返し分取の者共者
手前分と一所は諸段の責とね務りあり水代お作と云ふ
大氏おは準なり凡回地の申よまよと經して穀物等と云ふ
下り田は極りたる所われは下田と村中へ割取られ申
地よまよと云ふ所と云ふ地は地と云ふしてと云ふ實事
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
せざらぬと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
高よ地び地主様立てお箇の起り一と云ふと考べり四五と云ふ
用垣まきしそお神社仏堂稲干場土瓦場墓所お塚記牛馬

捨所等入るるに段別を帳にお書き記さしつり○百石
の村五十石づつ二所一は三十石づつおけるる様二人と云ふ
やびら十石と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
よと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
人よと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
小言よ減カて後には各百石と云ふ果は各と云ふと云ふと云ふと云ふ
者よと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふ○凡一村の總おらると云ふ徳藏經書をよと云ふと云ふ徳藏
と云ふ村の中田をよと云ふ準て完と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
寛一と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

役顯宗紀徭
と刻也今夫
夫足室町
夫凡
人足
人夫貞觀儀式○天武
紀於保多如良

徭持統紀○通證
曰蓋身征也
夫凡
人足

徭丁晉書○河柏齋集云民財空虛弊議仰惟國朝使民之
法除里甲正辦外如糧長解戶馬頭船頭館夫水夫馬

初法令嚴明編食有數故民力未至甚勞近年以來則常役
之外雜派夫役紛々而出如所柴夫檣柴夫修河夫修倉夫

可勝數者矣此他修瀾夫修隄夫之類因事編食蓋有不

作田役同上太宰之職以八則野役同上若起野役遂

民至干遂之運丁仕學運夫夢溪人夫荒政

大旗之下運丁仕學運夫筆談人夫要覽

蕃名アーンデーリングデルホルツ
夫使民以時時以作事事以厚生不違農時皆民の農

際と時あふて公後と課るるなり皇極紀大兄王曰願

十年不役百姓以一身之故豈可煩勞万民哉孝德紀曰於

農月不合使民又曰凡仕丁者每五十戸一人以充諸司續

紀寶字元年詔曰自今以後宜以十八為中男子二十以上

成正丁按書言故事註唐制男子二十一歲差丁役隋文帝

又唐書授田十畝歲輸粟二斛謂租丁物部氏曰蓋男子二

八而精通有為人父之道當是時士大夫之子志為士大夫

農工商之子志為農工商其無志者亦衆矣如昭公十九

有童心是也三十而受室受田始稱一夫前是則餘夫也
賦役令曰凡正丁歲役十日若須收庸者布二丈六尺一日
二尺六寸須留使者謂正役之外滿三十日租調俱免役日
少者計見役日折免通正役並不得過四十日次丁二人同

うは村役人と婦人は是と不精なる者なり又是より
不坊なりいさよ一各主の害を福えより人は五人と
福清ハ三人と出一定は役を欠て村方へ働やする人
とれども其は我所持のものと引田地なく己うあるは
さはゆゑ何てもめて福来ふ人は又ハ法を内違せて村
村事々々なるものなり組頭以味をる○夫春ハ耕を
僅一畝ハ之のりと收り且ハ之を通一川と海へ又ハ海
江と成き山野と冥き塔と修め陵と平ふと子のとて敷
阿ふりありあは凡ハ席上の軍議とあふりくも場
就て其功と政分の実像と踐むれば空論なる○前

謂清負とくふと田地川濬土木運輸等も阿ふると
て助役修管とて官に金と納て官に金と納て支用と償
あり又高買の徒官に請て金と百姓より募出さし己
の「あまてき用事を包辦するあり共は中より取て
利と射の計と多はるるに後世多くは冤屈と被るゆか
らば大學衍義補に樸買者通計坊勢該得税錢總數俾高
先出錢与官買之然後聽其自行收税以為償也元初有以
銀五十万兩樸買天下差發者有以銀五万兩樸買燕京酒
課者有以銀一百万兩樸買天下河泊桥梁渡口者耶律楚
材云此是姦人欺上罔下為害甚大咸奏罷之樸買ハ此云

運めり水陸乃事多しと云々一按毛詩執官功註
功葺治之事也或云公室官府之役也王制云用民之力歲
不過三日是也賦役令凡正丁歲役十日とあり然れど
和漢書よりハ農を回し軍役と勤しむ賦をれば
之時の農ハ耕作のくくを士ハ吏務軍事と知は各
ふゆえを今一撮ハハいと云々且女と遷交して諸倍也
諸工匠あり又賦者傭僱高僧漁獵をく民戸の等分析
教浪とありさうはは揚丁夫の役も若ハ百姓バウリ
さうバウリとのぶく歳を三日十日をどの公役とい
ふとのハきくを一日よと三度一月ふと十度さう
馳

従らざる者申おまごハ一月ハ三度の役も出ると要
患とやよしとさうはは三度ハ六度ハ九度ハ十二
度とあり十二度ハ乃皇サ四度とありさうは民いごと
命は堪ふを續紀曰無知百姓不閑條章規避徭役多有
逃亡涉歷他郷積歲忘歸其中縱有悔過還本貫者縁其家
業散失無由存濟望請能悔過歸者給復一年継其産業建
武二紀仕丁役事以十町田地毎年一日役可令勤仕也
とありさうれば後醍醐天皇の御宇ハ一年一度の
夫役とありと云々さうはゆえは別氏の時ハ一ヶ月
ハ八九度の課役とありさうは城未嘗その難儀とい

いふことより後ち平記は當將軍義政卿の御代と
すて一年深役算より深大嘗會と云ふは十一月九
度時と掛らるは二月八度及び三月九日
民饑死と著る都鄙一般は徳政の激訃と企りらる
武家より借金と商人より恨び既して新訴及
ば息災と免されて今及て二十三度までと徳政
と云ふはさるは貧人窮人哀樂と回せざれば
より富者一錢と云ふは貧と助るるは僅といふ
辨てらるは應仁記は麻花院義満の御代は倉方四半に
より善廣院義教の御代と云りて倉役の時時志づか

りまうば借債と稱んとて前代未だ徳政といふこと
出して此時代はサシ度まで云はれは倉方を地下と
皆絶果て天下は破れは破れは皆ハ滅ハ滅ハコトと云
え室町日記天文十六年義輝御領百姓の訴状は是止と
となく勤者より依て十ヶ年らあつて三ヶ一と云は
いごととあり漢史後論は倉役と云はるは富高富民
よりめけて辨かりあふと云ふはかく國用乃不足と
るよりハ皆是上一人の騎套にふと其流弊下民は
て怨若せし所の禍終はまこと一人は帰らるものやと
里又東鑑は段別の錢公田十町は付後若干と云はる

凡之兼久記に國々に守護と云き郡郷と地頭とを一段
別兵糧と云取る者領家ハ地頭と云ぬと地頭ハ領家と
あつと云建武記曰町別錢貨人夫傳馬事稱先例被懸百
姓之條不可然向後以撫民之儀可為領主之所役應仁記
ハ一段別棟別と云くの極とあつて遺責とれバ必くの
名主百姓ハ耕作と云地頭と捨てて食一足と云任
てと云くはつとありしりより出浪出浪ハ百姓の羅極
しと云くはつとありしり或書ハ百姓の出浪ハ大抵田一段
ハ金子二分或二分二銖と云の租と通例と云云と云
たのりふと大莊頭と云く出浪と云を有りといつり

夫農の物本と云はるハ米穀と云はるは米牙ハ零糶と
るハ豊年の時ハ米價賤して又凶歲ハ米直騰貴とい
つと市ハ鬻と云くは粟粟と云ハ是農の常と云はる
事と云ふと云はるハ民の課役免と云ハつと云ハ
の恒例と云中不就て 仁徳天皇浪華高津宮ハ都と云
ハ浪速上古圖説曰高津宮ハ舊址登高臺遠く眺望と云
ハ今の東高津村高原の地と云ハ乃詔曰烟氣不起於域中以為百姓既貧而家無炊者封
畿之内尚有_シ不給者_ル況乎畿外諸國耶自今之後至于三載
悉除課役息百姓之苦自是日始黼衣鞋履不弊盡不更為
也温飯煖羹不酸餒不復也三稔之後諸國悉請曰課役

五免既經三年貢稅調以修理宮室然猶忍之不聽矣十年
甫科課役以構造宮室於是百姓不令而扶老攜幼運材負
簣未經幾時而宮室悉成故於今稱聖帝竟宴和歌集天慶
六年 仁德天皇と詠む侍師輔の歌 大鷦鷯天皇がよ
る山煙天のいつぎともえはさるる哉其三年ハ尚有至
一十年課役と免されしとて豈奪じしとの謂ありん
や帝の聖とる所以なるを七錄齋集賦役論云以版
籍天下之甲兵以墾田定天下之賦稅國家之定制也而因
時通變之道亦存其中唐之租庸調租出於田調出於家庸
出於身令不煩而易守而又有役二十五日役三十日之所

免水旱蟲蝗十損四十損六十損七十以上之所免則周官均
節之遺也然兵興以後籍亡而征重其勢不得不從於地斷
此揚炎之改租庸調為兩稅與張說之改府兵為彍騎未可
同日而論也 中夫宋乾道之時汪灌一松陽之民首倡義役
役先後視籍田多寡視等行之三十年訟不抵於有司而謂
太夫師長不能新建規模成循理之鄉信義之里亦天下之
所不信也是故仲尼不對季孫之問田賦漢高怒責蕭何之
治未央萬世之計皆慮之於微而究之春秋所書宣公之稅
畝成公之丘甲哀公之田賦惡其大變古而亟思復者惟在
周公之典則今之所謂周公之典者何為乎郊祀之戶籍薦

天大誥之峻誅元賊吏亦其意也

成形圖說卷之九終

四十餘六十餘七十餘八十餘九十餘

御書物方

